

1 普通作物
2) 普通畑作物
(2) 普通畑作物除草剤の使用法

イ) だいず

(イ) 茎葉処理剤 (耕起前/播種前、播種前土壌混和等)

除草剤名	有効成分名	使用回数		RAC コード	使用時期	10a当たり使用量 (散布液量)	使用方法	備考
		本剤	成分					
サンダーボルト007	グリホサートイソプロピルアミン塩 ／ピラフルフェンエチル	2	4/4	H:9/14	耕起前又は播種10日前まで (雑草生育期：草丈30cm以下)	400～600mL (100L)	雑草茎葉散布	
サンダーボルト007	グリホサートイソプロピルアミン塩 ／ピラフルフェンエチル	2	4/4		播種後出芽前 (雑草生育期：草丈30cm以下)	400～600mL (100L)	雑草茎葉散布	
タッチダウンiQ	グリホサートカリウム塩	2	4	H:9	耕起前又は播種7日以前 (雑草生育期：草丈30cm以下)	250～500mL (25～100L)	雑草茎葉散布	・適用雑草は、一年生雑草及びコウキヤガラ。
タッチダウンiQ	グリホサートカリウム塩	2	4	H:9	播種後出芽前 (雑草生育期：草丈30cm以下)	250～500mL (25～100L)	雑草茎葉散布	・適用雑草は、一年生雑草及びコウキヤガラ。
バスタ液剤	グルホシネート	3	3	H:10	播種前 (雑草生育期)	300～500mL (100～150L)	雑草茎葉散布	・散布後6時間以内の降雨により効果が低下する場合があるので、 気象を見極めて処理する。
バスタ液剤	グルホシネート	3	3		播種後出芽前 (雑草生育期)	300～500mL (100～150L)	雑草茎葉散布	・散布後6時間以内の降雨により効果が低下する場合があるので、 気象を見極めて処理する。
ブリグロックスL	ジクワット／パラコート	4	4/4	22/22	播種前又は植付前	600～1000mL (100～150L)	雑草茎葉散布	・散布後極めて速やかに植物体に吸収されるので、散布後の降雨により 効果が低下することは少ない。
ブリグロックスL	ジクワット／パラコート	4	4/4		播種後出芽前雑草生育期 (草丈20cm以下)	600～1000mL (100～150L)	雑草茎葉散布	・散布後極めて速やかに植物体に吸収されるので、散布後の降雨により 効果が低下することは少ない。
ラウンドアップマックス スロード	グリホサートカリウム塩	2	4	H:9	耕起前又は出芽前まで (雑草生育期)	200～500mL (通常散布50～100L 少量散布5～50L)	雑草茎葉散布	・少量散布の場合は、専用ノズルを使用して均一に散布する。
ザクサ液剤	グルホシネートPナトリウム塩	3	3	H:10	収穫28日前まで (雑草生育期：播種・定植前)	300～500mL (100～150L)	雑草茎葉散布	・豆類（種実、ただしらっかせいを除く）での登録
トレファノサイド乳剤	トリフルラリン	1	2	H:3	は種前	200～300mL (100L)	全面土壌混和	・適用土壌は、砂壤土～埴土。 ・適用雑草は、ツユクサ科、カヤツリグサ科、キク科、アブラナ科 を除く。 ・本剤の使用回数は1回、トリフルラリンを含む農薬の総使用回数 は2回以内（ただし、全面土壌混和及び全面土壌散布は合計1回以 内、畦間土壌散布は1回以内）。

(ロ) 土壌処理剤 (播種後出芽前等)								
除草剤名	有効成分名	使用回数 本剤	成分 比率	RAC コード	使用時期	10a当たり使用量 (散布流量)	使用方法	備考
エコトップP乳剤	ジメテナミドP／リニュロン	1	1/2	H:15/5	播種後出芽前 (雑草発生前)	400～600mL (100L)	全面土壌散布	・適用土壌は、砂土を除く全土壌。 ・本剤の使用回数は1回、ジメテナミドPを含む農薬の総使用回数は1回、リニュロンは2回以内 (ただし、全面土壌散布は1回以内、雑草茎葉兼土壌散布は1回以内)。
エコトップP細粒剤F						4～6kg		
シナジオ乳剤	トリフルラリン／IPC	1	2/1	H:3/23	播種後出芽前 (雑草発生前)	300～400mL (100L)	全面土壌散布	・適用土壌は、砂土を除く全土壌。 ・適用雑草は、ツユクサ科、カヤツリグサ科、キク科雑草を除く。 ・本剤の使用回数は1回。トリフルラリンを含む農薬の総使用回数は2回以内 (ただし、全面土壌混和及び全面土壌散布は合計1回以内、畦間土壌散布は1回以内)、IPCは1回。
ブロールプラス乳剤	ジメテナミドP／ペンディメタリン ／リニュロン	1	1/1/ 2	H:15/3 /5	播種後出芽前 (雑草発生前)	400～600mL (70～150L)	全面土壌散布	・適用土壌は、砂土を除く全土壌。 ・本剤の使用回数は1回、ジメテナミド及びジメテナミドPを含む農薬の総使用回数は1回、ペンディメタリンは1回、リニュロンは2回以内 (ただし、全面土壌散布は1回以内、雑草茎葉兼土壌散布は1回以内)。
ダイロンゾル	DCMU	1	2	H:5	播種後出芽前 (雑草発生前)	150～200mL (100L)	土壌散布	・広葉雑草優占ほ場で使用する。 ・本剤の使用回数は1回、DCMUを含む農薬の総使用回数は2回以内 (ただし、出芽前は1回以内、生育期は1回以内)。
ラクサー乳剤	アラクロール／リニュロン	1	1/2	H:15/5	播種後出芽前 (雑草発生前)	400～800mL (100L)	全面土壌散布	・適用雑草は、使用量400～600mLはツユクサを除く一年生雑草、400～800mLはツユクサ。 ・適用土壌は、砂土を除く全土壌。 ・本剤の使用回数は1回、アラクロールを含む農薬の総使用回数は1回、リニュロンは2回以内 (ただし、全面土壌散布は1回以内、雑草茎葉兼土壌散布は1回以内)。
ラクサー粒剤						4～8kg		・適用土壌は、砂土を除く全土壌。 ・本剤の使用回数は1回、アラクロールを含む農薬の総使用回数は1回、リニュロンは2回以内 (ただし、全面土壌散布は1回以内、雑草茎葉兼土壌散布は1回以内)。
フルミオWDG	フルミオキサジン	1	1	H:14	播種後出芽前 (雑草発生前)	5～10g (100L)	全面土壌散布	・使用した器具類は必ず専用の洗浄剤で洗浄する ・アレチウリ、アサガオ類等に比較的效果が高い
ロロックス	リニュロン	1	2	H:5	播種直後～出芽前 (雑草発生前～発生始期)	100～200g (70～150L)	全面土壌散布	・砂質土での使用は避ける。 ・広葉雑草の優先するほ場で使用する。 ・本剤散布後4か月以内は他の作物を作付けない ・本剤の使用回数は1回。リニュロンを含む農薬の総使用回数は2回以内 (ただし、全面土壌散布は1回以内、雑草茎葉兼土壌散布は1回以内)。
ロロックス粒剤					播種後出芽前 (雑草発生前)	5～6kg		
トレファノサイド乳剤	トリフルラリン	1	2	H:3	播種後出芽前	200～300mL (100L)	全面土壌散布	・適用土壌は、砂壤土～埴土。 ・適用雑草は、ツユクサ科、カヤツリグサ科、キク科、アブラナ科を除く。 ・本剤の使用回数は1回、トリフルラリンを含む農薬の総使用回数は2回以内 (ただし、全面土壌混和及び全面土壌散布は合計1回以内、畦間土壌散布は1回以内)。
トレファノサイド粒剤 2. 5						4～6kg		・適用土壌は、砂壤土～埴土。 ・適用雑草は、ツユクサ科、カヤツリグサ科、キク科、アブラナ科を除く。 ・本剤の使用回数は1回、トリフルラリンを含む農薬の総使用回数は2回以内 (ただし、全面土壌混和及び全面土壌散布は合計1回以内)。
フィールドスターP乳剤	ジメテナミドP	1	1	H:15	播種後発芽前 (雑草発生前)	75～120mL (70～150L)	全面土壌散布	・適用土壌は、砂土を除く全土壌。 ・適用雑草は、アカザ科・アブラナ科・タデ科雑草を除く。
ラッソー乳剤	アラクロール	1	1	H:15	播種後出芽前	300～600mL (100L)	全面土壌散布	・一年生イネ科又はカヤツリグサ科の優占ほ場で使用する。

(ハ) 茎葉処理剤（生育期前半（全面茎葉散布等））								
除草剤名	有効成分名	使用回数 本剤	成分 成分	RAC コード	使用時期	10a当たり使用量 （散布流量）	使用方法	備考
パワーガイザー液剤	イマザモックスアンモニウム塩	1	2	H:2	出芽直前～3葉期まで （雑草発生始期～2葉期）	200～300mL （100L）	雑草茎葉散布 又は全面土壌散布	・砂質土では使用しない。 ・処理後に降雨が予想される時には使用しない。 ・初生葉期以降の散布では一時的に薬害が発生する場合があるが、その後の生育には影響しない。 ・本剤は雑草の発生始期から2葉期にかけて高い効果を示すが、雑草の生育が進むと除草効果が低下するので適期に散布する。 ・本剤の使用回数は1回、イマザモックスアンモニウム塩を含む農薬の総使用回数は2回以内（ただし、畦間処理は1回以内）。
アタックショット乳剤	フルチアセットメチル	1	1	H:14	本葉2葉期～開花前 （雑草生育期） ただし、収穫45日前まで	30～50mL （100L）	雑草茎葉散布 又は全面散布	・薬害を生じて減収する場合があるので、事前に指導機関の指導を受けるとともに、使用者の責任において薬害の品種間差及び程度を把握した上で使用する。 ・適用雑草は一年生広葉雑草（イチビ、イヌホオズキ類、ヒユ類に効果が高いが、アメリカセンダングサ、タデ科、ツユクサ科には効果が劣る）。
大豆バサグラン液剤 （ナトリウム塩）	ペンタゾンナトリウム塩	1	2	H:6	だいずの2葉期～開花前 （雑草の生育初期～6葉期） ただし、収穫45日前まで	100～150mL （100L）	雑草茎葉散布 又は全面散布	・雑草茎葉散布又は全面散布では、品種によっては薬害により減収する場合があるので、事前に指導機関の指導を受けるとともに、使用者の責任において薬害の程度を十分に確認する。 ・タデ科やアメリカセンダングサに高い効果を示すが、アカザ科やヒユ科、ナス科、トウダイグサ科、ツユクサ科、ヒルガオ科等には効果が劣る。 ・散布後の寡照により効果が低下する。 ・本剤の使用回数は1回、ペンタゾンを含む農薬の総使用回数は2回以内（ただし、畦間処理は1回以内）。
					だいずの生育期 （雑草の生育初期～6葉期） ただし、収穫45日前まで	300～500mL （100L）	畦間雑草茎葉散布	
ホーネスト乳剤	テプラロキシジム	1	1	H:1	雑草生育期 （イネ科雑草3～5葉期） ただし、収穫14日前まで	75～100mL （100～150L）	雑草茎葉散布 又は全面散布	・適用雑草は、一年生イネ科雑草（8～10葉期処理はスズメノカタビラを除く）。 ・イネ科雑草を完全に枯殺するまでに7～10日（スズメノカタビラは2～3週間）を要するので、誤って散布し直さないように注意する。
					雑草生育期 （イネ科雑草6～10葉期） ただし、収穫14日前まで	75～100mL （100L）		
ボルトフロアブル	キザロホップエチル	2	2	H:1	雑草生育期 （イネ科雑草3～10葉期） ただし、収穫30日前まで	200～300mL （通常散布50～100L 少量散布25～50L）	雑草茎葉散布 又は全面散布	・適用雑草は、一年生イネ科雑草（スズメノカタビラを除く）。 ・イネ科雑草を完全に枯殺するまでに約1週間を要するので、誤って散布し直さないように注意する。
					雑草生育期 （イネ科雑草3～5葉期） ただし、収穫60日前まで	75～100mL （通常散布50～100L 少量散布25～50L）		
ワンサイドP乳剤	フルアジホップP	1	1	H:1	雑草生育期 （イネ科雑草5～8葉期） ただし、収穫60日前まで	100mL （通常散布50～100L 少量散布25～50L）	雑草茎葉散布	・適用雑草は、一年生イネ科雑草（スズメノカタビラを除く）、シバムギ、レッドトップ。イネ科雑草に対しては、一年生から多年生まで広範囲に効果がある。 ・イネ科雑草を完全に枯殺するまでに約3週間程度かかる場合があるので、誤って散布し直さないように注意する。
					雑草生育期 （イネ科雑草8～10葉期） ただし、収穫60日前まで	100mL （100L）		
ナブ乳剤	セトキシジム	1	1	H:1	雑草生育期 （イネ科雑草3～5葉期） ただし、収穫30日前まで	150～200mL （通常散布50～150L 少量散布25～50L）	雑草茎葉散布 又は全面散布	・適用雑草は、一年生イネ科雑草（スズメノカタビラを除く）。 ・イネ科雑草を完全に枯殺するまでに約1週間を要するので、誤って散布し直さないように注意する。 ・雑草に付着した薬剤は速やかに吸収されるので、散布液が乾いた後の降雨は除草効果に影響しない。
					雑草生育期 （イネ科雑草6～8葉期） ただし、収穫30日前まで	200mL （通常散布50～100L 少量散布25～50L）		